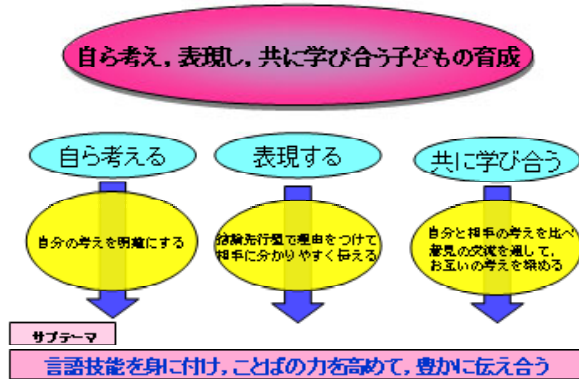


学校名	熊野町立熊野第一小学校
校長名	西村 文子
所在地	安芸郡熊野町3514
H P	http://www.15.ocn.ne.jp/~kuma01es/index.html
学級数	19 学級
タイプ	.

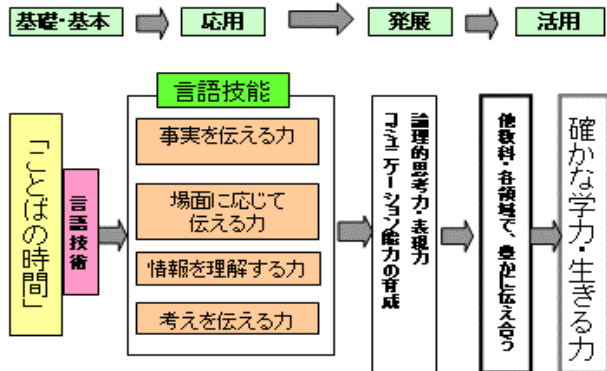
1 研究の概要

(1) 研究主題

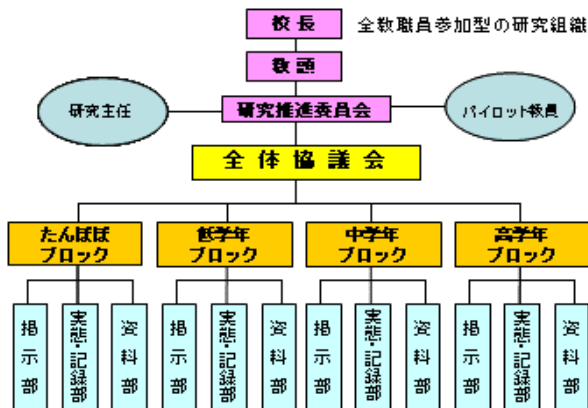


(2) 研究のねらい

言語技能を身に付け、「ことばの力」を高めて、児童自らが考え、表現し、伝え合うことを通して、豊かな表現力を培う。そのことによって、確かな学力・生きる力を付けていく。



(3) 研究組織・体制



2 2年間の取組みの概要

(1) 特設「ことばの時間」における言語技術指導

6つの言語技術を習得することによって、他教科・各領域において「豊かに伝え合う」ための「ことば」の基礎づくりをした。

問答の技術（受け答えをする技術）

2年目は、ステップ制にして問答ゲームに取り組んだ。

(問題例)	4級	これは、事実ですか、意見ですか。
	3級	あなたは、～に賛成ですか、反対ですか。

指導の観点が明らかになり、児童も目標を明確にして取り組んだ。問答ゲームを繰り返し行うことで、自分の考えを明確にし、理由を必ず考えるようになった。このことが、他教科の伝え合いの場で役立った。

再話の技術（要点をまとめる技術）

「再話」に取り組むことにより、段落を意識するようになった。段落ごとに、何が書かれているか読み取り、文に書き表せるようになった。国語科の単元「宮沢賢治」の読み取りも、各段落のキーワードを手がかりに深めていくことができた。読み取りが深まると、宮沢賢治の理想とするものは何かについての話し合いも深まった。



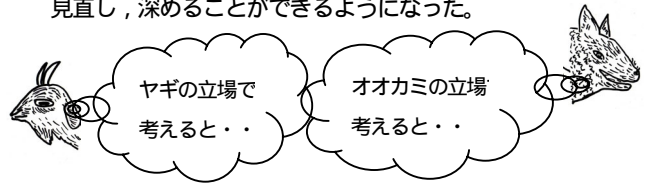
物語を書く時も、「起承転結」の段落に気を付けて無理なく書けるようになった。

物語・要約の技術（構成を考える技術）

「物語の構造」をつかむと、物語の全体像がすばやくつかめるようになった。高学年においては、構造図を手がかりにして、200～300字で内容の要約ができるようになった。他教科においても、自分の考えを決められた字数でまとめることができるようになった。

認知の技術（様々な角度から物事を見る技術）

「視点を変えて考える」ことで、同じ物を見ても、いろいろな見方、考え方があることに気付き、多面的に物事が考えられるようになった。視点を変えて考えると、自分の考えを見直し、深めることができるようになった。



情報伝達の技術（情報を正しく伝える技術）

必要な情報を正確につかみ、順序に気を付けながら相手に分かりやすい伝え方をするようになった。事実と意見を分けて、自分の考えを伝える時にも有効であった。どのように説明したら相手に伝わるか、自分の言いたいこと、考えたことを構成して説明するようになってきた。



情報分析の技術（情報的的確に分析する技術）



教科書の絵や資料が何を表しているか集中して観察し、必要とされている情報を読み取り、それを根拠にした考えをもって話し合いができるようになった。

(2) 朝の表現タイムでの言語技術指導

「ことばの時間」に学習したことを毎日の活動によって、発展させた。

読書タイム	水曜日を除く毎日 8:15~8:25 木曜日 読み聞かせ
音読・問答タイム	火・金曜日 8:35~8:45
お話・描写タイム	月曜日 8:35~8:45
鉛筆・再話タイム	木曜日 8:35~8:45

(3) 言語技術を他教科に生かした授業づくり

教科のねらいに即した付けたい力を明確にする。
付けたい力を支える言語技術を明確にし、授業のどの場面で生かされるか具体的な指導方法を考える。
伝え合いを深めるための言語技能を有効に生かす。

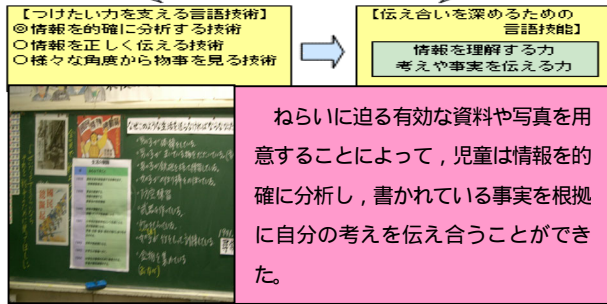
<事例>

6学年 社会科「長く続いた戦争と人々の暮らし」
【資料を通して自分の考えをもち、分かりやすく伝えよう】

【付けたい力】

◎ 資料を効果的に活用して、戦争の広がりの様子や戦時中の国民生活の様子について調べたことを分かりやすくまとめることができる。

○ 戦争の実態と平和の尊さについて考えることができる。



(4) 言語環境の充実

今月の詩、各学年の「ことばの時間」の学習内容、授業風景を掲示し、児童・教職員の「ことばの力」及び意識を高めた。

「ことばのポスト」を設置し、紙上問答ゲームに進んでチャレンジさせた。

(5) 職員研修（月1回）、ミニ演習（毎週火・木曜日）

全教職員に言語技術指導を行い、指導力を向上させた。
焦点化した協議会をもち、授業改善に取り組んだ。

(6) 保護者への取組み

全学級「ことばの時間」の授業公開、研究公開
通信「ことばの広場」発行

(7) その他の取組み

地域・他校への取組み・・・ホームページ、研究公開
広報「くまの」、普及種簿
図書委員会の読み聞かせ、広報委員会の新聞、作品応募等

3 研究の成果と課題

(1) 成果

授業記録・ビデオ・児童の作品から教師の指導力、児童の学び合いの様子の考察

児童・教職員への言語技術指導を通して、教師の授業力が向上している。児童は、自信をもって自分の考えを話し、根拠を明確にした伝え合いができるようになってきた。また、書かれた文章を見ても、自分の考えを明確にした相手に分かりやすい文章になっている。

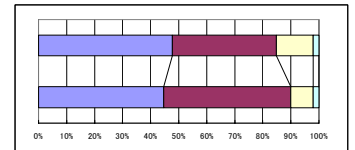
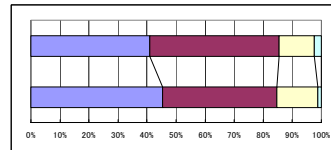
校内「ことばの教育」に関する意識調査結果の考察

(上段・平成17年度12月 下段・平成18年度12月)

■ とても思う ■ 思う ■ まあまあ □ もう少し

児童 【理由をつけて話す】

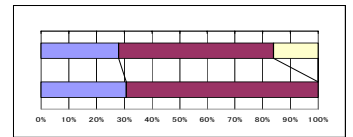
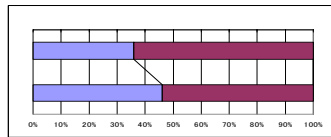
【一番伝えたいことを聞く】



児童は、「話す・聞く・読む・書く力」が身に付き、各項目とも達成目標80%を越えることができた。特に、「理由を考えながら話す」「相手が一番言いたいことは何かを考えながら聞く」ことを意識するようになり、伝え合いが深まってきた。

教師 【ねらいに迫る発問】

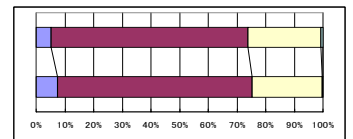
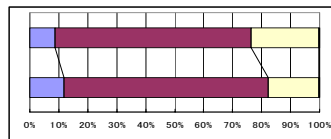
【構造的な板書】



教師は、「教斗のねらいに迫る発問、構造的な板書」をほぼ100%意識するようになり、児童の考えを深める授業をするようになった。

保護者 【「ことばの教育」の成果】

【「ことばの力」が付いた】



80%以上の保護者が、「ことばの教育」の一定の成果を認め、感想欄には、「ことばの教育」に対する期待感を表している。

研究公開（平成18年10月27日）における参加者記入「授業改善アップカード」の考察

児童の学習の様子	◎%	○%	△%	教師の指導力	◎%	○%	△%
② 「話す」「考える」				① 発問			
・主語、目的語をきちんと入れて整った文で話している。	3.6	4.9	1.5	・児童の考えや意見について理由や根拠を問うことを大切にし、その内容を深める問いかけをしている。	4.9	4.4	7
・結論先行型で、自分の意見、考えを明確に話している。	3.6	6.1	3	・児童の話の要旨を理解した上で、ねらいに応じた問いかけをしている。	3.8	5.8	4
・なぜそう考えたのか自分の考えた理由を相手に分かりやすいように内容を深めたり、順序に気をつけたりしながら話している。	8	8.4	8	② 板書			
				・構造的な板書を書いている。	5.7	3.7	6

参加者から80%以上の肯定的な評価を得ることができた。

(2) 課題

言語技術指導を継続して行い、児童一人一人の論理的思考力を高め、豊かな伝え合いができる、個に応じた教材開発や指導方法の工夫、授業改善を今後も継続していく。

